

化学コロキウム・生物学教室セミナーのお知らせ

“ 死の谷 ” に負けないイノベーション開発

講師：テルモ株式会社・代表取締役社長 兼 COO
高橋 晃（都立大・理・化学0B）

日時：2004年11月20日（土） 15時～

国際交流会館・大会議室

（セミナー終了後、交流会館喫茶室で歓談会を持ちます）

高橋 晃氏は都立大学化学科出身（昭和42年卒）でテルモ株式会社（旧仁丹テルモ株式会社）に入社後、研究畑から本年6月社長に就任されました。テルモ（株）では、理学部からも多くの人材が採用され活躍されており、今回、高橋氏には是非理学部でお話をというお願いに御快諾いただきました。大学院生とともに、学部生、もちろん教員の皆様方、土曜日ではありますが是非ご来聴下さい。

尚、講演会は、生物学教室セミナーと共催です。また、ご講演終了後、国際交流会館喫茶コーナーで高橋氏を囲んで歓談の場を設けますので併せてご参加下さい。

『“死の谷”に負けないイノベーション開発』

テルモ株式会社
代表取締役社長 兼 COO
高橋 晃

1. テルモの紹介

1921年、北里柴三郎博士他の医師が発起人となり、国産初の本格的体温計メーカーとして創業。その後、“医療を通じて社会に貢献する”という企業理念の下、シングル・ユースのディスプレイ医療器、人工臓器、カテーテル等、業容を拡大。

- 今年度の売上目標:約 2,300 億円、営業利益 400 億円
- 世界に17工場、従業員約 9000 名。

2. 日本企業が直面している問題点。 - “死の谷”

“死の谷”とは… 一般に、技術をビジネス化する過程において、失敗する要因が多くなる時期がある。この時期を“死の谷”(The valley of Death)と呼ぶ。日本企業は高い技術力はあるが、この時期が長くなる傾向があり、国際競争に負けてしまうケースが少なくない。

何故“死の谷”で失敗してしまうのか？

- 技術が目的になっていないか？
“何かを解決する事が目的で、技術は、それを達成する手段”であるはず
- 「化学研究の本質は、前人未到を目指す、社会に役立つ事を求めること。知的遊戯ではなく、人類が生きるための業(わざ)。実世界を知る努力が必要。」
(野依先生)

3. 若い研究者、技術者への期待

- (ア) 技術者は夢を持つこと。感動する心、感性を磨くこと。
- (イ) 先ず、一芸に秀でることを目指す
- (ウ) 若者の価値は、“意欲”と“行動”と“疑問”
- (エ) 異文化交流のススメ。 - コミュニケーションの努力。
- (オ) 約束を守る。 - 信頼を勝ちえ、人の力を借りることが出来る -

“人生に失敗はない。ただ、思い通りに行かないだけ。チャレンジしましょう”

以上